

祐善寺だより

第22号

発行日
2009年7月13日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生・森 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170



自我の根

いくら聞いても

なかなか

身につかない

佛の教え

切っても押えても

すぐのびてくる

自我の根

人のことじゃない

じぶんのことです

相田みつを

法句「自我の根」に憶う

住職 岡崎 賢

相田みつをさんは、どの作品においても、必ず「自我」や「自分・じぶん」を深くみつめ、問題にされた詩人なので、相田みつをさんの詩は、宗教家が書いたような印象を受ける方が多いのではないかと、思います。いや、私にとって相田みつをさんは、最も尊敬する詩人の一人であると同時に、そのあたりの坊主よりも遙かに尊敬できる宗教家でもあります。生きる望みを失った人が、相田みつをさんの詩に出会って、生きる意味を見つけたという人も、知っています。相田みつをさんの作品が、隠れたベストセラーを続けているのは何故か？その答えは簡単です。それは、覚者の言葉であるからです。

私は、この「自我の根」という詩を、何度読んでも、いつも、ただただつなずくばかりです。
偉い高僧と呼ばれる宗教家の話を聴聞してその場では感動しても、しばらく時間が経過すると、自分の頭の中にも心の中にも何にも残っていない。お寺の法座で布教師の法話に、ハッと気付かされたことがあっても、家に帰ったら元の木阿弥（もとのもくあみ）。あんなバカなことを言わなければ良かった、あんなみにくいことをしなれば良かった、と反省しても、次の瞬間、また、みにくい自分に逆戻りしてしまふ。このよつないことを

皆さんは経験したことがないでしょうか？いや、毎日毎日、その繰り返しであると言っても過言ではないでしょう。

それは、何故なのでしょう？相田みつをさんは、それを「自我の根」と表現されました。私共の内に、しっかりと根付いている自我の根が、仏法の教えもはねのけ、我が身中心な（我執にとらわれた）ごうまんな生き方を正当化してしまふからです。そして、そのことを良しとしてしまっているのです。そこにおいて、「自我の根」は、「じぶんのこと」ではなく、「人のこと」になっちゃってしまっているのではないのでしょうか。

親鸞聖人は、「自我の根」にまつわりつかれている私共の生を、「煩惱具足の凡夫」と教えて下さいました。

私共人間は、どこを切ってみても煩惱に充ち満ちている、ということですが。そして、大事なことは、煩惱具足の凡夫の自分に目覚めることができるか、と説いておられます。

私共人間は仏様からのちをいただいて生まれてきたにも拘わらず、この娑婆では、自我にまみれ煩惱にまみれた生きざまをさらけだして生きています。その私共が、煩惱具足の愚かな人間である、と気付かせて下さるのは、仏様の教えなのです。

平成21年度

祐善寺門徒達成目標

①一年に一度は

お寺の行事に参詣しよう！

報恩講・永代経会・彼岸会・同朋会等の教化行事に、ご門徒のご家族を誘い合わせて、一年に一度は、祐善寺の本堂で参詣しよう！

本堂で、ご先祖様のいのちと出会って下さい。どんなに、ご先祖様も安堵なさることでしょう。



②「正信偈」の

おつとめをマスターしよう！

正信偈のおつとめを、どこのご家庭でも全員が読誦できるように、「正信偈おつとめ出前講座」や同朋会等を利用して、正信偈のおつとめをマスターしよう！

ご家庭で、正信偈のおつとめの練習を始めると、家族間の和・親子の和が、ぐーんと強くなりますよね。もし、誰かに手ほどきを受けたい、という時には、住職に電話をして相談して下さい。

「正信偈おつとめ」出前料 は、一回千円です。



③かけがえのないご先祖の

年忌法要を、必ず勤めよう！

ご先祖様のお陰で、今、生かさせていただいていることに感謝しながら、ご先祖様の年忌法要を必ず勤めよう！

今年の年忌表（4頁参照）を確認して、先に仏様となられた大事な人の、年忌法要を勤めて下さい。

④作業奉仕に参加して

寺の護持意識を高めよう！

草刈作業（七月）、仏具磨き作業（十月）、報恩講御斎接待（十一月）、雪囲い作業（十一月）等の作業奉仕に自主的に参加して、寺がご門徒の尊いご憩念によつて代々相続されていることの意義を再確認しよう！



⑤祐善寺青壮年部（仮称）の設置を

考えよう！

寺の教化行事等に若い方が参画していただくための核となる青壮年部（仮称）を設置するために、知恵を出して形を作って行こう！

どうか、皆様方の若い力をお貸し下さい。

平成21年度護持費の志納よろしくお願ひします

祐善寺を永代に互つて護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようお願いいたします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相統講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸平均 一〇、〇〇〇円

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座
（〇〇七七〇―九一三〇七二一
・ 加入者＝祐善寺）

◇志納期限

毎年十一月末日

へ振り込む

花だより



祇園精舎の鐘の聲
 諸行無常の響きあり
 沙羅双樹の花の色
 盛者必衰の理とあらわす

これは平家物語の書き出しで、概ね次のような意味です。

『お釈迦様が祇園精舎で入滅された時、人々はその死を悼んで鐘を打ち鳴らした。暫く山々にこだましていたその鐘の音も、やがては静かに消えていった。また、精舎の四隅に植えられていた二本ずつの沙羅は、入滅の時純白の花を全て散り落として

釈迦の亡骸を包んだというが、このように真っ白に咲いた花もやがては茶色に色あせて散ってしまう。これと同じく、いかに権力や財力のある人でも何時かは衰えて消え去っていくのが世の習いである。』

このように、『平氏でない者は人でない』とまで言うて思うがままに振る舞った平氏でさえも、あつという間に滅んでしまったことを思えば、人として生きるべき道は自ずと見えてきます。短い人生を人の気持ちを考えず勝手気ままに生きるのと、貧

しくとも多くの仲間と力を合わせて生きるのと、さあてどちらを選ぶのかなどと考える人は誰一人いません。後者が数倍よいに決まっているからです。仏様に生かされている私達は、このような古典にも学びながら、人として恥ずかしくない生き方を心がけたいものです。

ところで、平家物語の冒頭に出てくる沙羅の木が、我等が菩提寺祐善

りしーずいろう

八代蓮如上人誕生迄

上野 保雄

寺の境内でも見られることをご存知でしょうか。初めの写真でご住職と一緒に写っているのがその木です。別名夏椿とも呼ばれ、毎年六月には形と大きさが椿とそっくりで、純白の花を咲かせます。庫裏から鐘楼へ向かって約十メートルの左側にありますから、この次お寺様へ上がられた時には是非ご覧下さい。秋には宝珠の玉の形に似た実をつけます。(G)

蓮如が六歳の時、生母と生き別れになった事は前号で述べました。昨年、紫式部千年忌に大津の石山寺に参拝の折、参道正面を登りつめたところに蓮如堂と言うお堂があり、蓮如の母と「鹿子の御影」がまつられているのに驚かされ、堂守にどうしてと尋ねると、蓮如様の母様はこの石山観音様のご化身で、蓮如と別れた日にこの堂の扉が自然に開いて帰られたのです、とまことらしく話してくれました。不思議な説と驚きました。

正妻如円に応玄と言う弟が生まれると益々継子いじめが激しくな

り、父存如が没してからは蓮如と応玄の間に相続争いが激化して、どうしても召使いの子このことで、長男とは言え不利であった。ところが父の弟で加賀本泉寺の如乗の強力な推挙により、八代は蓮如しかいないと言いきられ本願寺八大法主蓮如上人が誕生したと伝えられています。時に蓮如四十三歳でした。

それから蓮如は衰微しきつた本願寺を己の意志により、あらゆる智慧方法手段を駆使して、今日の浄土真宗の礎をつくられたのです。

『越知山 泰澄の道』が刊行!

—— 当寺も紹介

「越の大徳」とあがめられ、白山信仰の祖として名高い泰澄大師は、七世紀末に越前・麻生津でお生まれになられた。神童であった泰澄は、十四歳で越知山に上つて修行を重ねたと伝えられている。三十五歳で越知山を下りて白山へ向かった泰澄は、八十六歳、現在の越前町大谷寺で入滅するまで、県内外に多くの寺社を建立している。

その泰澄の偉大な足跡を「越知山 泰澄塾」(旧あさひ泰澄塾)が、発足二十周年記念事業として、このたび『越知山 泰澄の道』を出版された。本書の帯に、「越知山花立峠から朝日観音まで二十七キロの泰澄修行の道——白山信仰の原点、越知山

の自然と泰澄の四十四史跡をたづぷり紹介」と記されてあるように、泰澄大師の偉大な業績と口マンを大いに賞賛し、そのご縁をいただいた史跡が紹介されている「泰澄史跡ガイドブック」としても活用できる好書である。

泰澄大師によって創建されたと伝えられている当寺も、「泰澄の道 周辺の史跡」の章で紹介していただいている。

当寺について書いていただいている文章から、しばらく引用させていただきますと、「寺伝によると神亀元(七二四)年、泰澄大師が建立したといわれている。はじめ天台宗に属していたが、余りに荒廃していたところ、足利義尚の家臣岡崎太郎が住持して復興し、運如上人越前吉崎行化のときに、浄土真宗に改宗した。」と、紹介されている。

越知山 泰澄の道
「祐善寺」も収録されている『越知山 泰澄の道』の表紙

『越知山 泰澄の道』編集会議事務局では、希望者に本書を千七百円で頒布している。

はがき

〒九一六〇三三 越前町乙坂二二四一

清水秀紀様方

●携帯電話

〇九〇一二〇三七〇一五〇 清水様

●FAX 〇七七八一三四一〇五二六

で、住所・氏名・電話番号を明記して 同 編集会議事務局へ申し込んで下さい。

おくやみ

清水梅子様(福井市花堂北)には、平成二十一年二月四日、行年九十一歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。

一松島タズエ様(越前町森)には、平成二十一年三月六日、行年八十四歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。

年忌法要を

お勤め下さい

本年度の年忌は左記のとおりでございますので、貴家の過去帳等を御確認していただき、皆様にとられてかけがえのない御先祖様の年忌法要を是非、勤めて下さいませう、お願いいたします。

- | | |
|-------|---------|
| 百回忌 | 明治四十三年没 |
| 五十回忌 | 昭和三十五年没 |
| 三十回忌 | 昭和五十二年没 |
| 二十五回忌 | 昭和六十年没 |
| 十七回忌 | 平成五年没 |
| 十三回忌 | 平成九年没 |
| 七回忌 | 平成十五年没 |
| 三回忌 | 平成十九年没 |
| 一周忌 | 平成二十年没 |

第7回

御文講座

聖人一流の章(2)

そのくらゐを

一念發起入正定之聚とも釈し

そのことを書物には、「一念の信の發起に往生の身と正しく定まる」と書いてあります。

そのうへの称名念仏は

信心が決定した後のお念仏は、

如来わが往生をさだめたまひし

如来様が、私の往生を定めて下さった

御恩報尽の念仏と

こうろうべきなり

御恩に対する感謝のお念仏と心得て下さい。

あなかしこあなかしこ

もつたないないことでもあります。南無阿

弥陀仏

其の18

仏事一口メモ

通夜までの心得(1)

S子さんは、突然、夫を亡くしました。いつまでも悲しんでばかりもいられません。通夜・葬儀におけて準備をしなければなりません。

まず、家族が中心になり湯灌を行います。湯灌は、ご遺体をぬるま湯で拭き、清らかにすることを意味します。最近では、アルコールを含ませたガーゼや脱脂綿で拭くことが多いようです。昨今、この湯灌を病院や葬儀社が行うようになりましたが、やはり家族が中心となって行うべきでありましょう。

拭き終わりましたら、耳・鼻・肛門などに脱脂綿をつめ、眼と口を閉じ、衣服を整えます。男性はヒゲを剃り、女性には薄化粧をしてあげます。胸の上に両手を組ませ、木製の念珠をかけます。そして布団をかけ、顔は白い面布で覆います。

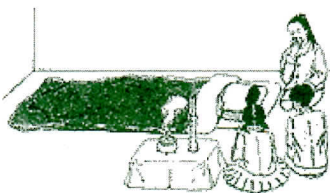
ご遺体は、本来お内仏(仏壇)のある部屋に安置します。ところが、

S子さんの自宅には、お内仏がありません。このような場合、お寺にご相談されるとよいでしょう。そして、遺体を納棺するまでは頭北面西にします。これは、お釈迦さまご入滅のお姿にならって行われていますが、必ずしも方角にこだわることなく部屋の状況に応じて決めてください。

このとき、衣服を逆にかぶせたり、屏風を逆さに立てたり、あるいは魔よけと称する守り刀は全く意味がなく不要です。

次に、枕飾りの準備をします。ご遺体の枕辺に小さな机あるいはお盆を設け、白布をかけ、香炉と口ウソク立てをおきます。

香炉には、香を燃じて絶やさないようにします。これを不断香といいます。異臭のにおわらないようにするためです。また、口ウソク立てには明かりを灯します。お別れに見舞った人にお顔がよく見えるようにするためです。



よ、枕飾りに膳飯や枕団子などをお供える場面を見受けますが、浄土真宗では必要ありません。(サンガ)の

お知らせ



永代経会

八月七日(金)

十一時半

御齋

一時半

永代経会法要

二時

布教

福井・託願寺住職

牧野豊丸師

三時半

物故者総墓収骨

永代経会とは、亡き人から願いをかけられて生かさせていただいていることに、感謝申し上げる法会であります。

このかけがえのない法会に、ご家族、ご法友お誘いあわせの上、何卒ご参詣下さいませよう、ご案内申し上げます。

ボランティア募集

寺周辺の

草刈り作業奉仕

日時：七月十九日(日)

八時集合

持物：草刈機もしくは鎌、軍手等

昼食：用意します。

炎天下で恐縮ですが、ご協力頂ける方は、前日までに祐善寺までお申し出下さい。

草刈り作業のみならず、刈り草運びや草むしり等の作業もありますので、どなたでもご協力いただけます。

ご協力頂ける方は、傷害保険に加入します。

皆様、どうかよろしくお願ひします。



ラジオ放送 『東本願寺の時間』

- ・福井放送 (FBC)
- ・毎週日曜日
- ・午前7時30分～7時40分

日曜日の朝、静かに「東本願寺の時間」を聴いて、すがすがしい一日をお過ごし下さい。

第17期親鸞教室一人として生きる

■ 7月15日(水)・8月7日(金)

講師：蓑輪秀邦氏 (仰明寺前住職・仁愛大学教授)

■ 9月7日(月)・10月7日(水)

講師：三橋尚伸氏 (大谷派僧侶・産業カウンセラー)

○公演時間：午後7時～8時30分

○会場：福井市民福祉会館 (福井市春山2-7-1)

○聴講料：1回 500円

○駐車場：東別院駐車場を無料開放

編集後記

★先般、役員会で祐善寺の運営について協議をし、これからは、若い人の協力・意見等を役員会、事業に反映して頂く方法を検討致しました。その具体的な取組みは、現在模索中ですが、是非、若い人達のご意見を祐善寺までお寄せ頂ければ幸甚かと思ひます。

★世界第二の経済大国でありながら、医療制度が年齢で線引されるなんて、今なお理解が出来ません。二〇〇八年四月から施行された後期高齢者医療制度、税制改正で保険料負担の増額、都道府県の格差年金からの天引き制度など、高齢者の生活は圧迫され、生活不安が大きくなっていきます。この対象者は、戦後復興や、経済発展のために尽力され、その礎になった人達だと思ひます。皆さんは、どうお考えですか。

★報恩講の法話に「煩惱具足の凡夫だった」。これは煩惱を捨て切れないう愚かな人のことを言います。陽願寺住職の強いお言葉に、私は深く感動を受け、自己反省をした所でございます。それからは法話会があると聴聞に出かけます。(T・O)